

船舶事故調査報告書

令和5年10月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗組員負傷
発生日時	令和5年1月31日 01時00分ごろ
発生場所	佐賀県佐賀市早津江川河口南方沖（有明海） 早津江川口西灯台から真方位203°900m付近 （概位 北緯33°08.2′ 東経130°19.3′）
事故の概要	漁船大豪丸は、搭載艇を使用してのりの収穫作業中、甲板員がのり摘み機に手を挟まれて負傷した。
事故調査の経過	令和5年2月1日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 大豪丸、1.7トン SA3-17168（漁船登録番号）、個人所有 B 搭載艇（船名なし）、総トン数なし なし、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長、一級小型 甲板員、操縦免許 なし
負傷者	軽傷 1人（甲板員）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	A船は、船長及び甲板員が乗り組み、のりの収穫作業（以下「本件作業」という。）に使用されるB船を搭載して係留地を出航した。 B船は、角船と呼ばれる長方形の船外機船で、長辺側が船の前後となっており、中央部には細長い円柱を船横方向に倒した形状の回転刃を持つのり摘み機が置かれていた。 また、本件作業は、B船を、のり網と海面との間に入り込ませ、のり網をロープ（以下、のり網を吊っているロープを「吊りロープ」という。）で吊っている2本の支柱の間を前進させながら、のり摘み機の回転刃でのりを摘み取るものであった。 船長及び甲板員は、A船のクレーンで海上に下ろしたB船に移乗後、船長がのり摘み機の左舷側に、甲板員が同摘み機の右舷側につき、それぞれ舷側の船縁に腰を掛け、身体を同摘み機に向けた状態で本件作業を開始した。 甲板員は、前進するB船の支障とならないように吊りロープを右手で掴んで頭上を通したり、のりに付着したごみを取り除いたりして本件作業を続けていたところ、吊りロープを掴もうと右手を船首方に伸ばした際、左手がのり摘み機のフレームと回転刃との間に挟まれて負

	<p>傷した。</p> <p>船長は、本件作業を中断して帰航することとし、携帯電話で自身の家族に本事故が発生したことを伝えた。</p> <p>甲板員は、係留地に到着後、船長の家族が要請した救急車で病院に搬送され、左小指末節骨開放骨折等と診断された。</p> <p>甲板員は、1月10日ごろにのりの収穫期が始まって以降、船長と共に本件作業を行っていたが、それまで本件作業の経験はなく、事前に船長から、本件作業時に手をのり摘み機に近づけないようにとの注意を受けていた。</p> <p>甲板員は、のりの収穫期が始まって以降、本件作業のほか、のり網の酸処理作業等も行っており、合計6時間程度の断続的な睡眠しかとることができない日が続き、疲労が蓄積していた。</p> <p>甲板員は、本事故当時、疲労が蓄積して注意力が低下していたので、吊りロープを掴もうと伸ばしていた右手のみに意識が向き、左手がのり摘み機に近づいていたことに気付かなかったと、また、左手でB船の船縁を掴み、左手が同摘み機に近づかないようにしておけば良かったと本事故後に思った。</p>
<p>分析</p>	<p>A船は、搭載艇であるB船を使用して本件作業中、甲板員が、疲労が蓄積して注意力が低下している中、吊りロープを掴もうと右手を伸ばした際、右手のみに意識が向いていたことから、左手がのり摘み機に近づいていたことに気付かず、左手が同摘み機のフレームと回転刃との間に挟まれて負傷したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、A船が、搭載艇であるB船を使用して本件作業中、甲板員が、疲労が蓄積して注意力が低下している中、吊りロープを掴もうと右手を伸ばした際、右手のみに意識が向いていたため、左手がのり摘み機に近づいていたことに気付かず、左手が同摘み機に挟まれたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のり養殖漁業に従事する漁業者は、搭載艇に乗船してのりの収穫作業中、支柱にのり網を吊っているロープを片手で掴んだりする際、もう一方の手がのり摘み機に近づかないように、もう一方の手の位置に注意を払っておくこと。なお、同ロープを片手で掴んだりする際、もう一方の手は船縁等の船体の一部を掴んでおくことが望ましい。 ・ のり養殖漁業に従事する漁業者は、操業により短時間の断続的な睡眠しかとることができない日が続く場合、疲労が蓄積しないよう、適宜休漁日を設けることが望ましい。